

木の家スクール名古屋フィールドワーク 2016.07.30

「岐阜県中津川市加子母 明治座 見学会」

岐阜県の加子母（かしも）明治座へ行ってきました
現役で、歌舞伎やクラシックコンサートの上演が行われています
京都大学などの有識者により改修方法が検討されたようです

耐震補強改修にともない屋根の葺き替えを行っていました。

（建築当時の木の板屋根へ復元することで屋根を軽くした）

屋根板材は地元の方が手作りしました（約8万枚）。

国道257号線を通ると、山ぎわにひときわ目をひく古い建物が見えてきます。明治27年、村の有志たちによって建てられた、芝居小屋「明治座」です。

回り舞台やスッポン、両花道を備えた劇場形式の農村舞台で、県指定有形民族文化材に指定されています。

断熱材もないのに涼しい、

なんだか豊かな空間だなあと感じました

県の重要文化財らしく、どこを耐震改修したのか分からないよう
上手に耐震改修されていました。

裏の楽屋部分など目立たないところに耐震壁をつけていました。
どこを改修したのか分からないことが、誇りであり、村の人たちの要望・希望だったそうです。

明治座は村の宝だそうです。

明治座の絵本もつくられています。

耐震改修の様子をドキュメンタリー映画にもしています。

映画上映をホウバ寿司を食べながら見ました。

長さ8間（14.5m）を飛ばした梁の大空間は圧巻でした。

柱は添柱による補強がされていました。

楽屋にはたくさんのサイン（中村勘三郎さんのものも有り）

とても歴史を感じました。

坂本龍一さんのサインもありました。

たくさんの人の思いがたくさんつまった建築でした。

また、歌舞伎を観に行きたくなる、魅力的な建築でした。

その時は、人がたくさん入り、活気ある、また違った魅力が見られると思います。

（報告 黒野晶大）

